

令和 8（2026）年度 学内推薦試験 コード一覧表

全 研 究 科 共 通	P 1
経 済 学 研 究 科	P 2
商 学 研 究 科	P 3
工 学 研 究 科	P 4－5
言 語 教 育 研 究 科	P 6
国 際 協 力 学 研 究 科	P 7
地 方 政 治 行 政 研 究 科	P 8－9

拓殖大学大学院

全研究科共通各種コード

③専攻コード	研究科	課程	専攻		コード	
	経済学	博士前期	国際経済		2 2 1	
		博士後期			3 2 1	
	商学	博士前期	商学		2 1 1	
		博士後期			3 1 1	
	工学	博士前期	機械・電子システム工学		2 5 4	
		博士後期			3 5 4	
		博士前期	情報・デザイン工学		2 5 5	
		博士後期			3 5 5	
	言語教育	博士前期	英語教育学		2 3 1	
			日本語教育学		2 3 2	
		博士後期	言語教育学		3 3 1	
	国際協力学	博士前期	国際開発		2 4 1	
			安全保障		2 4 2	
		博士後期	国際開発		3 4 1	
			安全保障		3 4 2	
	地方政治行政	修 士	地方政治行政		2 6 1	
⑪国・地域コード	国名	コード	国名	コード	国名	コード
	アメリカ	U S	サウジアラビア	S A	ネパール	N P
	アラブ首長国連邦	A E	シンガポール	S G	バングラデシュ	B D
	イギリス	U K	スペイン	E S	ミャンマー	M M
	インド	I N	スリランカ	L K	フィリピン	P H
	インドネシア	I D	タイ	T H	ベトナム	V N
	エジプト	E G	韓国	K R	マレーシア	M Y
	オーストラリア	A U	中国	C N	モンゴル	M N
	カナダ	C A	台湾	T W	ラオス	L A
	カンボジア	K H	ニュージーランド	N Z	ロシア	R U

※その他の国・地域は記入不要

⑩試験区分コード	試験名	課程	試験区分	試験区分コード
	6 月試験	博士前期	一般（日本人）	801
			留学生	802
	I 期試験	博士前期	一般（日本人）	803
			留学生	804
		博士後期	一般（日本人）	851
			留学生	852
	II 期試験	博士前期	一般（日本人）	817
			留学生	818
		博士後期	一般（日本人）	853
			留学生	854

《経済学研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

系列	専修科目	コード	指導教員	博士前期	博士後期
経済学	ミクロ経済学	224	教 授 岡崎 哲郎	○	○
	マクロ経済学	225	教 授 宮永 輝	○	○
	財政学	204	教 授 白石 浩介	○	○
	金融経済	230	客員教授 碓井 茂樹	○	○
	産業組織	238	教 授 丹野 忠晋	○	○
国際政治経済	国際経済	218	教 授 服部 哲也	○	○
	国際貿易	220	教 授 市川 哲郎	○	○
	国際金融	208	教 授 高橋 智彦	○	○
	経済発展	229	教 授 松井 謙一郎	○	○
地域経済	現代日本経済	231	教 授 山本 尚史	○	○
	中国経済	222	客員教授 田中 修	○	○
	東南アジア経済	236	教 授 井上 治	○	○

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。

《商学研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

系列	専修科目	コード	指導教授 授員	博士前期	博士後期
商 学	マーケティング	145	教授 田嶋 規雄	○	○
			教授 堂野崎 衛	○	—
			教授 池田 真志	○	—
			教授 太田 実	○	—
			教授 河内 俊樹	○	—
			教授 住木 俊之	○	—
	貿易	114	教授 日野 道啓	○	○
	金融	102	教授 山村 延郎	○	—
	国際ビジネス・コミュニケーション	130	教授 長尾 素子	○	○
経営学	国際経営	105	教授 佐藤 幸志	○	○
	経営情報	106	教授 松岡 公二	○	—
			教授 佐野 雅隆	○	—
	経営戦略	113	教授 角田 光弘	○	○
			教授 潜道 文子	○	—
			教授 黒澤 佳子	○	—
			教授 松橋 崇史	○	—
	経営組織	147	教授 仁平 晶文	○	—
会計学	財務会計	141	教授 宮川 昭義	○	○
	管理会計	112	教授 李 燕	○	—
	税務会計	146	教授 稲葉 知恵子	○	○
	会計監査	119	教授 岡嶋 慶	○	○
	コーポレート・ファイナンス	143	教授 中村 竜哉	○	○
法律学	企業法	136	教授 藤田 祥子	○	—
	租税法	144	教授 松田 直樹	○	—
			教授 安部 和彦	○	○

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。

《工学研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

【博士前期課程】 演習指導教員一覧			
コース	教育研究分野	コード	指導教員
機械 システム工学	応用力学・ ロボット システム工学	527	教 授 香川 美仁
			教 授 志村 穰
			准教授 茂木 学
			准教授 西川 佳男
			助 教 長津 裕己
	エネルギー システム工学	503	教 授 松永 直樹 (※)
			教 授 倉田 修
			准教授 前田 将輝
	設計工学	504	教 授 木原 幸一郎
			教 授 森 きよみ
電子 システム工学	信号処理・ 回路システム 工学	522	教 授 林 誠治
			教 授 小川 毅彦
			教 授 渡邊 修
			教 授 三堀 邦彦
			准教授 何 宜欣
	電子通信 応用工学	523	教 授 渡辺 裕二 (※)
			教 授 吉森 茂 (※)
			教 授 長谷川 淳 (※)
			教 授 前山 利幸
			准教授 常光 康弘
情報工学	情報科学	515	教 授 蓑原 隆
			教 授 早川 栄一
			教 授 西田 誠幸
			准教授 島川 昌也
			准教授 澄川 靖信
			助 教 西垣 貴央
	情報工学	516	教 授 諸角 建 (※)
			教 授 高橋 丈博
			教 授 佐々木 整
			教 授 水野 一徳
			准教授 寺岡 丈博
			准教授 藤堂 英樹
			准教授 郭 鐘聲
デザイン 工学	感性情報 システム	519	教 授 岡崎 章 (※)
			教 授 大島 直樹
			教 授 アルバレス・ハイメ
			准教授 小出 昌二
			准教授 崔 烘碩

デザイン 工学	生活環境 システム	520	教 授 阿部 眞理
			教 授 白石 照美
			教 授 工藤 芳彰
			准教授 永見 豊
			准教授 宮木 健二
			准教授 森岡 大輔

(※) 指導教員として出願できません。

【博士後期課程】 演習指導教員一覧			
コース	教育研究分野	コード	指導教員
機械 システム工学	応用力学	501	教 授 香川 美仁
			教 授 志村 穰
			教 授 木原 幸一郎
	エネルギーシステム工学	503	教 授 松永 直樹 (※)
			教 授 倉田 修
電子 システム工学	信号処理・ 回路システム工学	522	教 授 林 誠治
			教 授 小川 毅彦
			教 授 渡邊 修
			教 授 三堀 邦彦
	電子通信応用工学	523	教 授 渡辺 裕二 (※)
			教 授 吉森 茂 (※)
			教 授 長谷川 淳 (※)
			教 授 前山 利幸
情報工学	情報科学	515	教 授 蓑原 隆
			教 授 早川 栄一
			教 授 西田 誠幸
	情報工学	516	教 授 諸角 建 (※)
			教 授 高橋 丈博
			教 授 佐々木 整
			教 授 水野 一徳
デザイン 工学	感性情報 システムデザイン	519	教 授 岡崎 章 (※)
			教 授 大島 直樹
			教 授 アルバレス・ハイメ
	生活環境 システムデザイン	520	教 授 阿部 眞理 (※)
			教 授 白石 照美

(※) 指導教員として出願できません。

《言語教育研究科》 ④「専修科目」 ・ 「指導教員」

専攻・課程	教育研究分野	コード	指導教員
英語教育学専攻 博士前期課程	英語教育学	301	教 授 狩野 紀子
			教 授 居村 啓子
			客員教授 ニックリン クリストファー
			助 教 菅 清隆
	言語学・英語学	302	教 授 渡辺 勉
			准 教 授 大野 英樹
	英語コミュニケーション学	303	教 授 塩崎 智
			教 授 河原 清志
日本語教育学専攻 博士前期課程	言語学・日本語学	304	教 授 阿久津 智
			准 教 授 小井 亜津子
			特任教授 陳 力衛
	日本語教育	305	教 授 中村 かおり
			教 授 栗田 奈美
			准 教 授 平山 紫帆
	日本文化・比較文化論	306	客員教授 小林 健彦 ※2026年度募集停止 (6月24日更新)
言語教育学専攻 博士後期課程	英語教育学	301	客員教授 スチュアート ジェフリー
	日本語教育学	307	教 授 阿久津 智
			教 授 中村 かおり
	言語学	308	教 授 河原 清志
			准 教 授 小井 亜津子
			特任教授 陳 力衛

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。

《国際協力学研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

専攻	研究分野	コード	指導教員	主担当科目	博士前期	博士後期
国際開発	経済開発	401	教 授 新田目 夏実	人口学、日本の社会と文化	○	—
			教 授 甲斐 信好	比較政治体制論（開発と民主化）、外国語文献研究Ⅰ（英語）	○	○
			教 授 原嶋 洋平	国際環境協力論	○	—
			教 授 徳永 達己	開発マネジメント論（事例研究）	○	○
			教 授 矢口 優	開発経済学	○	○
			教 授 徳原 悟	国際金融、国際経済学	○	○
			教 授 椎野 幸平	International Trade Policy、南アジア研究（現代経済）	○	—
			教 授 竹下 正哲	国際農業協力論	○	○
	地域研究 A	402	教 授 文 大字	N I E S 研究	○	○
			教 授 横山 真規雄	欧州研究	○	—
			教 授 吉野 文雄	東南アジア研究（開発と A S E A N 戦略）	○	—
			教 授 岡田 実	日中関係研究	○	—
安全保障	安全保障・危機管理	403	教 授 佐藤 丙午	国際関係論、社会科学研究方法論、安全保障特論（軍備管理、信頼醸成）	○	○
			教 授 遠藤 哲也	危機管理論、国際紛争特論	○	○
	地域研究 B	404	教 授 門間 理良	台湾研究、中国政治研究	○	○
			准教授 野村 明史	中東研究、イスラーム研究	○	○
			助 教 梅田 皓士	地域研究演習 B	○	○

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。

《地方政治行政研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

課題領域	コード	指導教員	教育研究の内容
政治・政策の領域	601	教授 丹羽 文生	私の研究領域は政治学で、特に政治過程論を専門分野としている。特定の政治課題、あるいは政策課題が、どのようにして考えられ、検討、決定、実施されるのか。そのプロセスにおいて繰り広げられるアクター間のインターアクションを理論的、実証的に検証・分析するものである。フィールドワークによる調査研究を基本に、これまで主に戦後日本の政治・外交を中心テーマに扱ってきた。授業、演習では、今日に連なる戦後日本の政治・外交の展開過程を、可能な限りミクロな見地から検証・分析し、その成果と課題を考究していきたい。
近・現代日本政治学の領域	612	教授 澤田 次郎	私の主な研究テーマは、近代（江戸幕末～太平洋戦争期）において日本の世論形成に影響力のあった政治思想家（たとえば福沢諭吉や新渡戸稲造など）が海外諸国、国際関係についてどのような考えを有していたか、その対外政策論を考察することである。それを通じて、日本が太平洋戦争に傾斜していく過程を内面的にとらえることを目標にしている。授業では、その時代に書かれた文献、現在の優れた研究者たちの論稿を読みながら、単に過去を回顧するのではなく、今日の日本の政治外交の原型というべきものを、歴史的に分析していきたいと考えている。
近代立憲主義に立脚した憲法学の領域	613	教授 小竹 聡	憲法とは、何よりも、専断的な権力を制限して広く国民の権利を保障するという立憲主義の思想に基づくものであり、その最も重要なねらいは、権力を制限して人権を保障することにあるとする近代立憲主義の意義を再確認し、個人主義の理念に立脚した日本国憲法の創造的展開を目的として、人権の不可侵性の確保とそのための統治の仕組みを不断に追求しながら、比較憲法の視点に立って、現代立憲民主主義国家における立憲的諸制度の構築のために必要な、公法学上の課題の検討を行う。
政治コミュニケーションの領域	615	教授 岡田 陽介	私の主たる研究テーマは「政治コミュニケーション」であり、特に、政治家の声の低さが印象形成に与える効果を中心に検討を行っている。有権者は政治家から提供される様々な情報をもとに投票の意思決定を行っている。政治家が提供する情報には言語情報や非言語情報があるが、非言語情報としての声もその要因となりうる。授業では政治コミュニケーションに関連する論文を用いて、世論調査データの分析方法や心理学実験を用いた分析方法を学ぶとともに有権者と政治家のコミュニケーションのあり方を検討する。

アカウンタビリティの領域	616	教授 益田 直子	私の専門領域は行政学であり、特に評価研究を研究領域としている。行政活動を評価の視点から観察することにより、行政機関による学習と行政活動の改善がいかんにして可能か、国会や国民に対するアカウンタビリティの実現がいかんにして可能か、について研究している。具体的には、日米を中心とした政策評価制度、最高会計検査機関、国会の行政監視機能、評価の活用に係る理論分析等を行った。授業では、行政理論、実証研究の実例、社会科学の方法論等を扱っており、演習ではそれらの知識を前提に指導を行う。
戦後メディア文化のオーディエンスを対象とした社会学の領域	617	准教授 池上 賢	教育研究の内容：私の専門はメディア社会学と質的社会調査である。主なテーマは、戦後日本におけるメディア文化、特にポピュラーカルチャーの経験史と、人々のアイデンティティとの関係である。ポピュラーカルチャーは、娯楽にとどまらず、社会におけるイデオロギーや人々のアイデンティティ、そして「クールジャパン」をめぐる議論に象徴されるように文化政策などの政治的文脈とも関連している。授業では、質的な社会調査やメディア理論に関する国内外の専門文献を講読し、関連する様々な現象を分析する能力を身に付けていく。

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。